

令和5年度 学校自己評価システムシート

日高市立高麗川中学校

目指す学校像	できないをできるに変え、夢ある未来を拓く学校
重点目標	1)主体的・対話的で深い学びによる学力の向上 2)生徒指導・教育相談の充実 3)授業力・指導力の向上 4)コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の推進 5)特別支援教育の推進

年度目標		年度評価 (令和6年1月15日現在)		学校運営協議会での評価		「学校運営協議会での評価」を受けて		
評価項目	具体的方策	評価指標	A+Bの割合		達成度	次年度への課題と改善策 (・次年度へ継続する課題 ・改善していくための方向性)	学校運営協議会での評価 実施日 令和6年3月7日 学校運営協議会の委員からの 意見・要望・評価等	
			職員	保護者				「次年度の課題と改善策」に係る変更点や追加事項等 (※変更点や追加事項等がない場合は空欄)
組織運営の充実 (小中一貫の視点)	・積極的な情報提供による、学校教育目標の周知と共有 ・小中合同研修会の実施による小中一貫教育の推進	1 学校教育目標「自立と貢献」の実現を目指し、生徒の育成に努めている	96.1	97	B	・各種行事や教育活動の目的と学校教育目標のつながりを一層明確にし、実践を積み重ねる。 ・学校課題研究の発表を契機に、小中交流事業を全学年に広げていく。また、小中一貫の系統性を重視しながら、9年間を見通した指導の充実を目指す。	・あいさつ運動は、今後も継続してほしい。(児童・生徒のみなさんからのあいさつは大変気持ちがよいです。) ・小中共同の活動は、いろいろな制約があるなか少しずつ進んでいると思うが、保護者にはわかりにくいのもっとアピールしていくことが大切である。 ・学校運営協議会と協働本部が小中連携にどうかかわってほしいのか模索している最中で、明確化していくことが必要である。	・たて割り班活動(昔遊びや全校遠足)など、新たな小中交流事業を展開していく。 ・市主催イベントのボランティア参加や、公民館主催行事等の地域行事に積極的に参加することで「自立と貢献」の具現化を図る。 ・再来年度に迫る分離型小中一貫校の開設準備を推進していく。
		2 小学校との連携を推進し、小中一貫教育に努めている	88.5	81.8				
基礎学力の定着	・主体的・対話的で深い学びを目指した授業研究会の実施 ・自主学習への意欲付けによる家庭学習の習慣化	3 学習内容が身につくよう、学習規律を定着させ、わかりやすい授業、楽しい授業をしている	100	88.4	A	・生徒同士が学び合う機会を大切にするとともに、学力向上に相関の高い活動のための授業技法について職員研修を実施した。 ・自主学習ノートを配布し、生徒自身がテーマを決めて取り組んだり、予習・復習に取り組んだりして、家庭学習の習慣化を図った。	・学習効果を高めるための授業技法について、職員研修を実施していることは、大変意義のあることである。 ・保護者と先生の評価の差が気になる。生徒は、家庭学習で何を行っているのか、保護者は知らないのではないか。保護者が何を求めているのか把握する必要がある。 ・生活や実体験と直結するような指導を行うと、生徒も興味もちやすくなると思う。	・学校課題研究でまとめた、各教科の系統的、横断的な結びつきを活用し、小学校から中学校への学習内容をスムーズに引き継ぎ、9年間を見通した教育課程を具現化する。
		4 生徒が家庭学習に取り組めるよう指導している	96.1	85.7				
保護者や地域との連携 (コミュニティ・スクールの視点)	・各種便り、メール等による情報発信 ・学校公開の実施 ・共感と傾聴を大切にしたい三者相談の実施	5 保護者・地域に学校の取組や教育活動を伝えている	96.1	95.1	A	・定期の学校だよりやメール配信のほか、体育祭、合唱祭、開校記念高麗川中の日の授業参観・講演会、学校公開週間等を開催した。昨年と比べ大幅に参観する機会を増やすことができた。 ・三者相談や個別相談を通じて、保護者との意思疎通を図るとともに、地域の声を誠実に受け止め、迅速な対応に努めた。	・メールを利用して、不審者情報などを配信することは、大変効果的であると思う。今後は、こんなことに困っているのを手伝って欲しいというような配信をしてもよいと思う。できることがあれば、協力したいという人がいるのではないかと。 ・三者相談では、生徒の前で保護者が話せない時などあると思うので、二者面談の相談日があってもいいと思う。	・11月の三者相談を希望すれば二者相談も選べるような選択制を検討する。
		6 家庭への連絡や相談など、意思疎通を図ろうとしている	100	91.5				
社会性・人間性の育成	・いじめアンケート、生活アンケートの実施による実態把握 ・生徒が主体となり活躍できる行事の実施	7 生徒がだれとでも仲良く生活し、いじめや不登校がないよう努めている	96.2	95.1	A	・定期的ないじめアンケート、交換ノートの他、日常の些細な行動変容を見逃さず、全教職員が全生徒について情報共有を行い、見守りと見届けを行う。 ・道徳、人権教育の一層の充実を図り、生徒一人一人にやりがいと居場所があるよう環境を整備する。また、自尊心を育む行事となるように、一層の工夫をしていく。	・生徒と共に過ごす時間を今後とも大切にしたい。 ・道徳の授業でタブレットを使って様々な人の生き方を見せるなどして、生徒により深く考えさせる授業を展開していただければいいと思う。	・生徒のわずかな変化を見逃さない教員集団をつくるためには、教員の心のゆとりが不可欠である。教員が本来の業務に集中できる環境を整えるためにも生徒指導や教育相談に力を入れていく。
		8 学級活動や生徒会活動、学校行事などを通して、生徒の心の育成をしている	96.1	98.4				
安心安全な教育環境	・施設設備の月点検、日常点検の実施 ・定期的な自転車点検や学期末ごとの交通安全指導、年度当初の交通安全教室の実施	9 校舎内外の施設設備などが安全に使用できるようにしている	100	97.3	A	・複数の目による確実な定期点検を今後も実施し、安全安心を第一に潤いのある環境を整える。また、生徒が主体的に行動できる避難訓練の実施に向けて計画・立案をしていく。 ・自転車事故が数件発生していることから、定期的な自転車点検と交通ルールへの指導を実施していく。また、ヘルメット着用の啓発を行っていく。	・いつ訪問しても学校内の整備がされていて好感がもてる。 ・スクアードストリート教育手法は、とてもよいことだと思います。話だけでなく目で見て感じることでより注意すると思います。 ・自然災害が多いこの頃、中学生として行動できる訓練を立案していただきたい。 ・ハード面についてバリアフリー化の議論を進めるべきである。	・消防署や公民館等の協力や助言をいただきながら、生徒自身が自分で判断し安全確保・避難ができるような、訓練プログラムを作成し、実施をしていく。
		10 生徒に登下校時の交通安全など、安全安心な学校づくりに努めている	100	92.6				

※達成度：「A」ほぼ達成(評価結果の全てが8割以上)・「B」概ね達成(評価結果の全てが6割以上)・「C」変化の兆し(評価結果の全てが4割以上)・「D」不十分(評価結果の全てが4割未満)